

第78回 上海博楚簡研究会のご案内

※ 本研究会は、平成28年度JSPS科研費 26284010助成「Multi Disciplinary Approachによる新出土資料の総合的研究」（基盤研究（B））「出土資料と漢字文化研究会」との共催です。

① 戦国秦漢「禮」思想と『荀子』 ② 清華簡『繫年』における争点若干について

発表者：①佐藤將之教授(台湾大学) ②小寺敦准教授(東京大学)

第78回目を迎えた今回の研究会は、佐藤將之教授（台湾大学）と小寺敦准教授（東京大学）が担当し、最新の情報を盛り込んだ研究発表をいたします。

つきましてはご多忙中恐れ入りますが、下記の要領で開催いたしますので、ご関心をお持ちの方々多数お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

【佐藤教授発表要旨】

荀子は「禮」思想の提唱者として著名ですが、中国古代の「禮」論の発展からみた荀子「禮」思想の位置づけについては、『荀子』と大戴小戴両『禮記』の用例との比較で類似の語句や段落の存在を指摘する程度でなされてきたに過ぎません。しかし、近年の出土楚簡資料における『禮記』関連文献の発見により、先秦時代の「禮」論が『荀子』の「禮」論を契機としてどのようにして秦漢時代の「禮」論への展開したのかを考察できる可能性が開けてきました。

本報告では、出土楚簡資料の発見を契機に解明が期待される荀子「禮」思想の意義について、その現状と展望をのべます。

【小寺准教授発表要旨】

李学勤主編『清華大学蔵戦国竹簡』（貳）（中西書局、2011年12月）は、『繫年』という年代記風の文献を収録しています。本篇は従来の伝世・出土文献に見えない記述を含むため、多くの研究者の注目を集め、研究成果が次々に世に問われています。その出版からは既に4年以上の歳月が経過し、現段階における議点はおおむね出尽くした感があります。

今回の発表では、これまで『繫年』において論争になっている問題幾つかをとりあげ、その個々の論点の解決を検討します。

日時：2016年6月25日（土）午後2時～午後5時

場所：東京大学本郷キャンパス法文1号館2階216教室

- 使用言語 日本語 ○参加費 無料
- 『清華大学蔵戦国竹簡』（貳）の写真図版や釈文のコピーなどは、各自ご用意下さい。

連絡先：〒176-0025 東京都練馬区中村南1-12-5
東京大学名誉教授 池田知久 電話：03-3926-8568